

2019年11月7日

各位

会社名: 富士石油株式会社
 代表者名: 取締役社長 柴生田 敦夫
 (コード番号: 5017 東証第一部)
 問合せ先: 総務部 IR・広報グループ 祖父江 高明
 TEL: (03) 5462-7803
 URL: <http://www.foc.co.jp/>

第2四半期連結累計期間の業績予想との差異に関するお知らせ

2019年8月8日に公表の2020年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想と、本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2020年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想との差異 (2019年4月1日～2019年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A) (2019年8月8日発表)	214,600	0	△700	△700	△9.08
今回発表実績 (B)	211,805	△5,730	△6,389	△5,726	△74.31
増減額 (B - A)	△2,794	△5,730	△5,689	△5,026	
増減率 (%)	△1.3	-	-	-	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2019年3月期第2四半期)	284,670	10,315	9,920	7,996	103.77

2. 差異の理由

前回の予想は、第2四半期連結累計期間の原油価格（ドバイ原油）を66.2ドル/バレル、為替レートを110円/ドルの前提で策定いたしましたが、同期間のそれぞれの実績は、64.3ドル/バレル、108.6円/ドルとなりました。

これにより、在庫影響（総平均法及び簿価切下げによるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響）が12億円の原価押し上げ要因（前回予想は16億円の原価押し下げ要因）となったことに加え、原油相場調整の中で、価格急落前の高値原油在庫を処理したことによる製品マージンの悪化等により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益について、前回予想を下回る結果となりました。

以上